



東京八王子プロバスクラブ

創立1995年10月18日

プロバスだより

第160号

<http://www.tokyo-hachioji-probusclub.jp>

2009年3月12日発行

編集・発行：情報委員会

2008～09年度テーマ

『学びそして発信しよう、より豊かな地域社会を求めて』

- ・日時：平成21年2月12日（木）
- ・場所：エルシィ
- ・出席者：出席：60名
- ・お客様：東京八王子南ロータークラブ 廣瀬武彦様

1. 多村例会委員長の司会で定時に開会



2. 会食：

メニュー：よせ鍋



立川会員より恒例のバレンタインディー
のチョコが全員に届けられました。

3. 矢島会長挨拶



皆様今日は、立春が過ぎたといっても春とは名ばかりで、毎日寒い日が続いておりますが、今月も元気に例会に出席をいただきまして誠に有り難うございます。本日は南ロータークラブの元会長廣瀬様のご出席を頂きました。

さて、二月を迎えてプロバスクラブの地域奉仕活動の大きな柱であります、生涯学習サロンの開講が間近となりました。先週の理事会では、三週間後に迫ったサロンの開講に向けて最後の協議を行いました。具体的な内容につきましては、後ほど澤渡地域奉仕委員長より報告をいたしますが、その中で大きな課題のひとつが、一般のサロン受講希望者の数が当初予定した募集定員75名を大幅に超えて、107名にも及ぶ多くの市民の方々から参加申し込みをいただいたことでもあります。今までのサロンにおいても、このように100名を超えた申し込みは、なかったかと思いますが、出来れば、申し込みをいただいた方々全員をサロンにお招きできないかということで、地域奉仕委員会の皆様にもお骨折りをいただきました結果、幸いなこと

に、希望者全員を受け入れるための会場確保や野外サロンの際の、増車の問題などの手配が可能なこと、更に、予算面においても特別会計の収支の範囲内で処理できる見通しが立ったことなどから、理事会といたしまして、希望者全員を受け入れることといたしました。

しかし、このことによって一方では、会員皆様の希望講座への参加が少なからず影響を受けることや、サロン運営への負担をおかけすることとなりますが、学習サロンの活性化や新しい学習サロンの方向性や可能性を求めて行くためにも、ぜひ会員皆様のご理解をお願い致したいと存じます。

そして、クラブの総力を挙げてこのサロンを成功させることが、今年度の運動のテーマであります、より豊かな地域社会の形成に向けた取り組みとなりますよう、会員皆様の一層のご支援とご協力を宜しくお願いいたします。

最後になりましたが、会員の皆様に一言感謝を申し上げたいと思います。先ほども触れましたように、この度のサロンには、多くの市民の方々から参加をいただくことが出来ました。しかし、これは予想外と云う事ではなく、担当の地域奉仕委員会が昨年結成して以来、幾度となく会合を重ねながら、新しいサロンの開設を目指してご努力をいただいた結果であろうと思います。また、これに伴った各委員会の皆様や、サロン開設に当たって快く講座の話し手を引き受けていただいた会員の皆様、そして、多くの市民の方がたにサロンの紹介をしていただいた皆様の、ご努力の積み重ねの結果と理解をいたしております。

例会の開催に当たって改めて、会員の皆様から心から感謝を申し上げ例会挨拶といたします。

4. 議事

(1) 幹事報告 矢崎幹事

会員総数72名に変化ございません。休会4名
今月26日には生涯学習サロンが開催され、黒須八王子市長もご列席の予定です。全員野球と申しますか、クラブ全員で成功させましょう。

(2) 各委員会報告

・例会委員会 多村委員長

本日の欠席者は、休会4名、当日8名で12人の欠席で出席率は83%であります。

- ・情報委員会 特になし
- ・会員委員会 特になし
- ・研修委員会 特になし
- ・地域奉仕委員会 澤渡委員長

1. 生涯学習サロン 一般参加者応募状況

2月10日現在 107名 (内 北[°]-^タ 75名)

90~100名の拡大均衡型の目標設定を大幅に上回ることが出来ました。これは北[°]-^タ参加者が大幅に増えたことに加えて、会員各位の協力や話し手の内容の充実にあったと思います。改めて御礼を申し上げます。

2. 参加者増加への対応

運営面に於ては、参加者への対応が整然かつ粛々と為されることが大切と思います。

就いては、以下2点につき、会員各位のご支援とご協力をお願いします。

i) 参加者増加を前向きに捉え、プロバスクラブ全体で今年度学習サロンを支えて頂きたいと思えます。

ii) サロン会場の変更など、会員各位のご要望を満たすよう工夫・努力するが、出席率の上昇などから一般参加者を優先することも無いとは云えません。 予めご了解ください。

3. 連絡事項

i) 学習サロンの講座別役割分担表をご担当者の方々にはお渡しするのでご確認ください。

ii) 開講式に於ける講座紹介を従来の話し手自身が行う方式から司会者が紹介するスタイルに変更します。

iii) 学習サロンのプロバス会員の参加証は開講式当日に配布します。

以上 (委員長資料より)

(3) 同好会報告

・ゴルフ同好会 (永井代表)

第17回ゴルフコンペの予告

4月24日 (金曜日) 場所: 八王子GMG

・囲碁の会・・・なし

・お茶の会 (竹内代表)

2月例会は第三火曜日17日です。

・写真同好会 (下山代表)

撮影会参加の方は開講式までに申し込みをお願いします。

・歴史の会・・・なし

(4) その他

八木会員

ハニカミオジン合唱団の会員募集のお知らせ
詳細は、次回お知らせしますが、芸術性高いコーラスを目指しますので、練習日には参加で

きる方を希望します。

6. 卓話 竹内会員

司会 多村委員長

これより、竹内会員により、「リスクマネージメント：お金で買えない経験」と題しまして、卓話をお願いいたします。

竹内会員



今日は、私が経験した食中毒事故とその危機対応についてお話をします。

皆様も色々な突拍子もない経験をしたことと思いますが、今日の私の話は、恐らく何方も経験したことが無かったことではないかと思えます。これは希望してなれるものでもないし、お金でも買えるものでもございません。そして、同時にそれをどのように解決したかと言う問題がありますが、解決の糸口は、やはり日常の危機管理 (リスクマネージメント) が平常時に出来ていたかにかかっているものと思えます。

長い人生の中で、運がついている時とついていない時があります。人生の波と云うのでしょうか。私の場合は、そのついている10年程の間に起こった出来事でございます。たまたま手を打っておいたことが、結果的に大変よかったと云うことになりました。ただ、何事も些細なことでも意識を持つということは大変大事であることを経験しましたので、そのお話をしてみます。

1987年7月23日

「福井県内の店舗で食中毒が発生した模様です!!!」

一社員からの報告で事件は始まりました。私は、伊藤忠商事 (株) の繊維部門にいましたが、54歳の時に、金沢のラーメンチェーン店 (北陸3県等100店舗を有する株式会社H) に株式公開のお手伝いと云うことで副社長として1986年11月に出向として参加しました。事件は入社半年後に起きたわけです。当初は一店舗の問題と思いましたが、数日の内に石川県・富山県にも広がり、患者数も271名に増加するなど、ただならぬ事態に進展していきました。保健所での調査により、自社 (上記 H社) で生産しておりましたチャーシューの製造工程でのサルモネラ菌発生が原因であることが判明しました。そして、3日の工場操業停止処分を受け、自粛も含め全店舗を10日間の休業を

実施すると共に、保健所等関係機関への全面的な協力をおこないました。
迅速かつ的確な行動が要求される中、私は次の行動をとりました。

素早い処置

① お客様への対応を先ず一番に考え、私は、271名の患者さん全員を訪問し、慰謝料と治療費等を即支払いしました。総額1600万円ほど出費しましたが、結果として、その後、一人も文句が来たことはありませんでした。

② 次のお客様は店舗です。休業補償しなければなりません。当社（H社）に問題があったのですから、加盟店とは**条件闘争**をせずに誠意ある説明と説得で、迅速に補償（廃棄食材費と休業中に当然得べき利益）を完了させました。

総額1億6000万円 払いましたが、加盟店との紛糾が心配された会議も平穩に終了することができました。

こうした一連のことを迅速に処理できたのは、**食中毒事故が食品会社にとって存亡の危機**があったからです。商社マンとして、取引先の倒産など修羅場を数多く経験してきたことから、危機にあたって、今、何が大切か、本能的に理解していたことが私にとって大きな財産でした。

損害としましては、上記の補償費等の他、店舗支援の広告・宣伝費（7000万円）本社損害（3000万円）合計3億円近くかかりました。

1987年8月1日（土曜日）

取締役会と顧問会が開かれました。H社は同族会社ですので、この損害金の支払いに関して、解決の仕方について議論しましたが、私は、こうした問題は、オーナーが腹をくくって処理することで、議論すれば損得が出るだけで駄目です、と話しました。そして、役員の方々の心配する原資の問題も、この食中毒事故を予測して掛けたわけで無いが、入社直後に、何時か起きるかも知れない食中毒を心配し、損害保険契約の見直しをしていたため、そこから1億6000万円を補てんできることや、社内の財務金融の仕組みをかえていたことなどで、会社としての財務を大きく傷めることなく、処理できることを説明しました。

その間、私（当時、副社長でした）を委員長とする社内対策・安全委員会を設置するとともに、3県の厚生部と店舗所在地各保健所に今後の安全対策・対応を説明しに回りました。また、仕入れ先のことを考え、食材費

の支払日が8月15日になっておりましたが、その日が土曜日にあたるので、経理上は17日の月曜日で構わないのだが、お盆の時期だし、こうした事故発生の時だからこそ、相手に不安を与えるなど、経理を説得し、1日前倒し14日（金曜日）に支払いました。

この事で、あとあと仕入れ先の協力を得ることもできました。こんなことも商社にいたので機転が利いたのかもしれませんが。商社では逆の立場になっていましたので、相手のことがよく理解できました。

オーナーにしてみますと、「昭和42年（1967年）創業以来そんな食中毒など一回もなかった、なのに…」と云います。私は、「しかし、それは、違う。昨日まで無かったから、明日も無いというのは間違えです。事故とはそういうものですよ。」と説明はしましたがなかなか理解してもらえませんでした。

昨今、大手食品会社においても、危機管理の欠如から、重大な事態を招いています。危機意識は危機に直面した時に感じて手遅れです。

私も今回の件では良い経験をさせてもらった、と感謝しております。辛い時もありましたが、困難な問題に向かって解決していくのが私の仕事と思い、苦しめたことは一回もありませんでした。

さて、H社で起きた食中毒事件は、一企業で起きたことではありましたが、この教訓は、なにも私だけの問題ではなく、世の中全体の企業がそれを見ていただいて、それを教訓にしていただければと思います。

配付資料：「我が社の危機対応—食中毒発生時の危機をどう乗り越えたか」



8. プロバスソング斉唱

9. 閉会の挨拶（下山副会長）

例会が滞りなく終了しましてありがとうございました。先ほど、会長や地域奉仕委員長からの話にありましたように、今年の生涯学習サロンは、新しい時代に向けて進歩したサロンが開幕するという事で、会員皆さん奮い立つような気分になったと思います。ぜひ、皆様のご協力で新しいサロンを成功させていただきたいと願っております。また、卓話では、竹内会員の「危機管理」という貴重な経験の話をお伺いしました。身につまされる思いで聴かれた方もいらっしゃるのではないかと思います。皆様を代表して、竹内会員に感謝申し上げて閉会の辞とします。

配付資料：

【甲州道中八王子宿の空間構成】

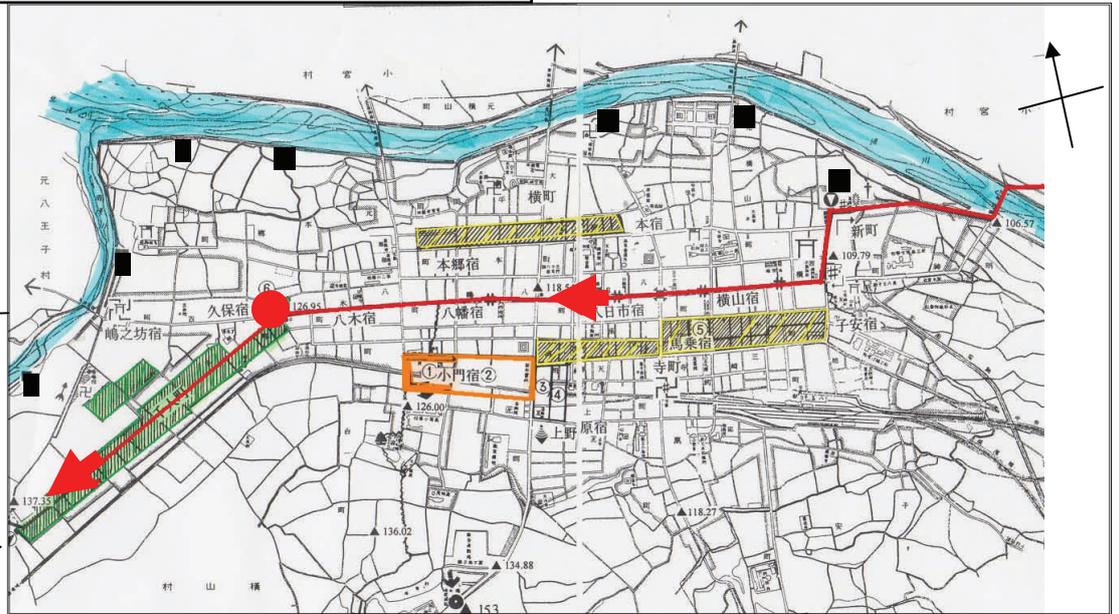
編注：識別し易い様に着色
しています

連行峰

醍醐丸

高尾山

富士山



- 千人頭・組頭屋敷
- 代官屋敷
- 大久保屋敷石見陣屋
- 追分
- 浅川の氾濫を防ぐ石見土手
- 甲州街道
- 山当て

歴史の会 特別講演記録

- 日時：平成21年1月15日 午後3時～5時
- 場所：クリエートホール

「甲州街道と八王子横山15宿・千人町」

多摩地域史研究会会員

馬場喜信氏



大正15年の八王子市街地の地図に、八王子城陥落後、徳川家康より命を受けた大久保長安（石見守）が、①甲州からの秀吉勢に対する軍事拠点として、②甲州街道最大の

宿場町として造営した新八王子の街を重畳させ、甲州道中八王子宿の空間構成を分かり易く説明されました。地図があり、地形と景観を理解すると、歴史も3Dの世界の様に、講演を聴く内に16世紀末の八王子にタイムスリップしているようでした。馬場先生の話の中でとても興味を持ったのは、街造りの基本ともなる道筋の設計法でした。蒼茫たる原野に新たに街を造るとき、長安は山当てと云う手法を使ったと思われること。八王子の最高峰の醍醐丸とその背後にある連行峰に向かう直線で宿場の中心の道を作り、そして、追分の点で、高尾山・富士山を結ぶ直線で甲州街道を35度に分岐させ、そこに千人同心を住まわした千人町を配置したこと。さらに、先生は、連行峰の連行とは、行を連ねる＝直線を引く…とは考えられないだろうか、測量用語ではなかろうか…と推理している。面白い話は続き、終わった時は何時しか日は暮れ、帰路、ふと窓外に目を移せば、冬焼けの空に、連行峰が山並に重なって見えていました。



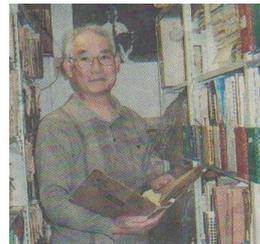
編注（イメージの参考に、手元にあった 色川大吉編「多摩の五千年 市民の歴史発掘」の本から、明治28年の八日町通りの写真を加えました。遠くに、連行峰が見えたことでしょう。）

● その他会員の活動

橋本委員長が、父上（「ふだん記」運動の創始者として知られる橋本義夫さん）の収集した貴重な資料を市に寄贈する話が2月3日付読売新聞で紹介されました。（新聞より写真）

庭に、貨車を改造した書庫（手前）を造り、その中に資料が保管されています。

（写真右 橋本さん提供）



編集後記：竹内会員の見事な危機突破に感心しました。危機を予測し、先手を打つ 危機管理の要諦が分かりました。先月の歴史の会の講演は八王子の街設計等話されました。我が街の話ですので、地図と講演記録抜粋を載せました。